

授業の心理学 指導案

指導者 立林 出口

1 テーマ

カクテルパーティー現象

2 本時のねらい（本時1／1）

カクテルパーティー現象の用語を、自分の日常生活と関連させ、理解させる。

3 本時展開の視点

- ・実験をすることで、実際にカクテルパーティー現象を実感させる。
- ・カクテルパーティー効果の具体例を紹介することで、日常生活との関連を明確にし、日常的に起こっている現象であると実感させる。
- ・カクテルパーティー効果の意義について教えることによって、情報を処理するメカニズムの有効性を感じさせる。

4 本時の展開

時間	学習活動	○教師の支援 ◆評価
3	<導入> ・最後に生徒の名前が入った、実験用ミニシアターを見る。	○ ミニシアターの最後のテロップに数名の生徒の名前を混ぜる。 ○ 映像を見て気がついたことを生徒に質問する。
10	<展開> ・カクテルパーティー現象の説明を聞く。	○ 導入時に起こったことを説明する。 ○ パワーポイントを使って説明する。 ○ 具体例を挙げて説明する。
7	<まとめ> ・カクテルパーティー効果が日常に起こっている具体例を聞く。 ・カクテルパーティー効果についての意義を聞く。 ・自分(生徒)の実体験を考え、発表する。	○ カクテルパーティー現象を利用したコミュニケーション方法の説明。 ○ 野球チームが自分の本拠地で勝ちやすい理由を説明する。 ○ カクテルパーティー効果の意義について説明する。

< 参考・引用文献、URL >

<http://www.ec.kagawa-u.ac.jp/~hori/kaihodic.html#ka>

<http://www.abn-tv.co.jp/column/naisyo/index.htm?id=641>

<http://www8.plala.or.jp/psychology/topic/cooktail.htm>

<http://www.ypoff.com/column.html>

大村彰道 1980 人間の記憶—認知心理学入門 東京大学出版会